

《専門教育科目》

科目名	宗教と人生			科目ナンバリング	C1011LGG004
担当者氏名	本多 彩			担 当 形 態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2 ・ 必	開講年次・開講期	1 年 ・ I 期

《授業の概要》

本講義では、兵庫大学短期大学部の「建学の精神」と仏教について理解を深める。また宗教へ多角的にアプローチすることによって宗教に対する理解を進める。この場合の宗教とは、制度化された体系だけを指すのではなく、宗教心や宗教性も含んだ広義の宗教である。さらに、いくつかの宗教（特に仏教）の体系を知ることによって、“価値”や“意味”といった計量化できない問題に取り組む力を養う。

《テキスト》

購入するテキストはないが、「ぷんどりーか」を準備しておくこと。
講義は配布プリントを中心に進める。

《参考図書》

『仏教聖典』

《授業外学習》

建学の精神に関連する宗教行事への積極的な参加（参加は受講態度として評価する）
定例礼拝 毎週水曜日 12時15分～
宗教セミナー
宗教ツアー
花まつり法要 など
身の回りの「宗教的なもの」をさがしてみよう。
仏教の本を読んでみよう。
《学習状況・理解度の確認》
分からないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

科目担当者は、浄土真宗本願寺派の僧侶である。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	1-1 自己や他者を理解する力	さまざまな宗教や仏教を通して異文化や他者理解を促進することができる。
◎	1-2 感謝しながら共生・協働できる力	建学の精神の理解を深め、説明できる。
○	2-1 多様な見方や考え方ができる力	日常生活領域にある宗教を通し人間や世界や生死を理解して社会の様々な課題を仏教という視点で捉え説明できる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試 験	50
小テスト	0
レポート	0
発表・実技	0
授業内課題	20
その他（講義内回答）	30
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	宗教とは何か	誤解されがちな宗教についてその機能を理解し説明することができる。	身の回りにある宗教を調べる	45
2	宗教の類型	分布や特徴によって分けられる宗教の類型を理解し説明することができる。	配布プリントを復習	45
3	世界の宗教：諸宗教の価値体系と意味体型	世界の諸宗教がもつ価値観を学び、その多様性について理解し説明することができる。	世界の宗教について調べる	60
4	建学の精神①：学内宗教ツアー	学内の宗教施設をめぐるという体験を通して各施設の説明をすることができるになり、建学の精神への理解を進める。	「ぷんどりーか」 p. 7-12	45
5	建学の精神②	建学の精神に深く関連する聖徳太子と仏教について学び説明することができる。	「ぷんどりーか」 p. 1-6	45
6	キリスト教を知る①	キリスト教の歴史や教えを学びその特徴を説明することができる。	キリスト教について調べる	60
7	キリスト教を知る②	キリスト教が現代社会に与えた影響とユダヤ教について学び説明することができる。	配布プリント復習	45
8	イスラームを知る	イスラームの歴史や教えを学びその特徴を説明することができる。	イスラームについて調べる	60
9	仏教を知る①	建学の精神にある仏教について、釈尊の生涯とその教えを理解し説明することができる。	配布プリント復習	45
10	仏教を知る②	初期仏教の展開と社会とのかかわりについて学び説明することができる。	『仏教聖典』『ほとけ』精読	120
11	仏教を知る③	大乘仏教の広がりの特徴について理解し説明することができる。	『仏教聖典』『ほとけ』精読	120
12	日本の仏教を知る①	日本仏教の特徴と展開について理解し説明することができる。	仏教の本を一冊読む	120
13	日本の仏教を知る②	日本の浄土系仏教の流れと教え、兵庫大学短期大学部との関連について理解し説明することができる。	配布プリント復習	45
14	建学の精神③	兵庫大学短期大学部の建学の精神について理解を深め共有し説明することができる。	「和」と仏教についてまとめる	90
15	建学の精神④ まとめ	兵庫大学短期大学部の学生としての誇りを持ち、建学の精神や宗教、仏教について説明することができる。	授業内容の整理とまとめ	90

科目名	日本国憲法			科目ナンバリング	C3032L◆-007
担当者氏名	豊福 一			担当形態	クラス分け
授業方法	講義	単位・必選	2	・ 選必	開講年次・開講期
					3 年 ・ II 期

《授業の概要》

日本国憲法の基本項目（「国民主権」「平和主義」「基本的人権の保障」など）について講義する。
短期大学部生として知っておくべき事項をできるだけ多く解説することに留意するが、「日本の防衛と国際貢献」「家族生活・雇用労働と平等」「子どもの学習権」などについては、とくに時間をとって、皆さんとともに検討することにした。憲法改正論議が進められている今日、「憲法の保障と改正」についても、検討を深めたいと考えている。

《テキスト》

『新時代の法学と憲法』建帛社

《授業外学習》

○予習として教科書を読んでおくこと。

○配付プリントの内容を復習すること。

《学習状況・理解度の確認》

講義の前後で質問を受け付ける。

《参考図書》

『憲法学教室 第3版』浦部法穂、日本評論社、2016
『憲法 第5版』辻村みよ子、日本評論社、2016
その他、授業中に、適宜紹介する。

《備考》

法的思考を培い、現代社会を見る眼を養ってください。科目担当者は実務経験者であり、平成17年より弁護士として法律事務所にて執務。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	2-2 社会や文化について理解する力	日本国憲法の主要な内容についての知識を獲得する。
		日本国憲法と現代社会とのかかわりについて、裁判例の研究を通じ具体的に理解する。
○	2-1 多様な見方や考え方ができる力	裁判例の研究などを通じて、日本国憲法をめぐる諸問題につき、多様な考え方があることを理解する。
		日本国憲法をめぐる諸問題につき、主体的に考究する力を養う。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	100
小テスト	0
レポート	0
発表・実技	0
授業内課題	0
その他()	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	憲法とは何か	①社会の規範、法の種類、法システム、②国家と法、憲法の意味・分類などについて説明することができる。	テキスト通読	60
2	日本の憲法のおいたち	①明治憲法の成立過程と特質、②日本国憲法の成立過程と特質について説明することができる。	テキスト通読	60
3	人権の性格と歴史	①人権の特色・種類、②「消極国家と自由権保障」「積極国家と社会権保障」、③「人権の制約」などについて説明することができる。	テキスト通読	60
4	基本的人権の保障 (1)	①「法の下での平等」原則について、また、②「家族生活と平等」「雇用労働と平等」などの現状と課題について、説明することができる。	テキスト通読	90
5	基本的人権の保障 (2)	精神的自由権（「思想・良心の自由」「信教の自由」）の意義・内容などについて説明することができる。	テキスト通読	60
6	基本的人権の保障 (3)	精神的自由権（「表現の自由」「学問の自由」）の意義・内容などについて説明することができる。	テキスト通読	60
7	基本的人権の保障 (4)	①経済的自由権、身体的自由権の意義・内容、②国務請求権の意義・内容について、また、③国民の義務について、説明することができる。	テキスト通読	60
8	基本的人権の保障 (5)	社会権（「生存権」「教育を受ける権利(とくに「子どもの学習権」)」「労働権」）の意義・内容などについて説明することができる。	テキスト通読	60
9	平和主義 (1)	①前文の「平和主義」関係部分、第9条の内容について、また、②第9条関係の主要な裁判例について、説明することができる。	テキスト通読	60
10	平和主義 (2)	「日本の防衛と国際貢献」のあり方をめぐる議論について説明することができる。	テキスト通読	60
11	国民主権 (1)	①「象徴天皇制」の意義・内容、また、②国会の組織・権能、③内閣の組織・権能、④議院内閣制の内容などについて説明することができる。	テキスト通読	60
12	国民主権 (2)	①選挙制度の現状と課題、②「地方自治」の意義・内容などについて説明することができる。	テキスト通読	60
13	国民主権 (3)	①司法権独立の意義、②裁判所の組織・権能、③司法の民主的統制などについて説明することができる。	テキスト通読	60
14	国民主権 (4)	「憲法の保障と改正」をめぐる議論について説明することができる。	テキスト通読	60
15	まとめ	これまでの学習内容を再確認するとともに、その学習成果を具体的に説明することができる。	学習内容の整理	120

《専門教育科目》

科目名	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）			科目ナンバリング	C1012L◆●009
担当者氏名	兒玉 拓			担 当 形 態	クラス分け
授業方法	講義	単位・必選	2 ・ 選必	開講年次・開講期	1 年 ・ Ⅱ期

《授業の概要》 身近な健康や医療についての一般的な理解を深めると同時に、運動による健康保持の実際を合せて学習する。	《授業外学習》 講義の進行に応じて実施する課題に真剣に取り組み、重要事項の把握と理解に努めること。理解が不十分な場合は教員に質問を行う積極性が求められる。
---	---

《テキスト》 なし 必要に応じて資料を配布する。	《学習状況・理解度の確認》 講義後に適宜小テストを実施しながら理解度を確認する。
---	--

《参考図書》 なし 必要に応じて紹介する。	《備考》 科目担当者は、医師として病院勤務歴のある実務経験者。
--	---

《授業の到達目標》			《成績評価の方法と評価の割合》	
ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標	評価方法(%)	
◎	2-4 運動や健康について理解する力	身近な健康問題について関心を持つとともにスポーツ障害について理解する。	試 験	100
○	2-5 主体的に問題を設定し考える力	健康問題について主体的に考え、知識の習得に努める。	小テスト	0
○	2-1 多様な見方や考え方ができる力	健康について多面的な見方とその理解を深める。	レポート	0
			発表・実技	0
			授業内課題	0
			その他（ ）	0
			合計	100

《授業計画》				
週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	花粉症	アレルギー疾患である花粉症の症状とその予防について	プリント通読	60
2	インフルエンザ	鳥インフルエンザなどの危険性とその対処について	プリント通読	60
3	熱中症	熱中症の発症メカニズムと危険性について	プリント通読	60
4	禁煙の推進	タバコの歴史とともに、喫煙の危険性について	プリント通読	60
5	臓器移植	臓器移植の歴史とともに臓器移植の実際と改正臓器移植法について	プリント通読	60
6	救急医療	救急医療の実際とドクターヘリの運用について	プリント通読	60
7	生殖補助医療	不妊治療の実際と高齢出産のリスクについて	プリント通読	60
8	睡眠時無呼吸症候群	中高齢者に発症する睡眠時無呼吸症候群の危険性とその治療について	プリント通読	60
9	食物アレルギー	小児から成人に至るまでの食物アレルギーのメカニズムと治療について	プリント通読	60
10	運動誘発喘息	運動アスリートに頻発する運動を契機に発症する運動誘発喘息について	プリント通読	60
11	結核症と近縁疾患	結核感染症の実際と感染の予防について	プリント通読	60
12	野外活動と有害事象 1	登山に必要なカロリーの設定や高山病の実際につて	プリント通読	60
13	野外活動と有害事象 2	ハイキングなどの野外活動で罹患する節足動物媒介感染症について	プリント通読	60
14	野外活動と有害事象 3	高地における危険脊椎動物の対処方法について	プリント通読	60
15	まとめ	総合判定を実施	講義内容の確認	120

《専門教育科目》

科目名	児童文化			科目ナンバリング	C1012SZH013
担当者氏名	石堂 美紀代			担 当 形 態	単独
授業方法	演習	単位・必選	1	・ 選	開講年次・開講期
					1 年 ・ II 期

《授業の概要》

児童文化は、子どもを取り巻く生活全般にわたるものといえる。子どもの生活の中心には遊びがある。児童文化の中心的な課題を遊びの中に見出し、子どもの成長と文化のかかわりについて学んでいく。また、この授業では絵本、あそび歌、パネルシアター、ペープサートの製作等を通して、保育をする際の留意点に気づき体得していく。そして保育者としての役割を理解し、実践につなげていくことに重点をおく。

《テキスト》

「児童文化がひらく豊かな保育実践」中坪史典編著 保育出版社

《参考図書》

《授業外学習》

絵本、あそび歌、パネルシアター、ペープシアターなど、児童文化にふれる機会を多く持つようにし、保育者として子どもに伝える前に自分自身がその内容に関心を深め親しむ。また、それぞれの児童文化財の特徴や演じ方の留意点等を学んだ後に、自らも演じることができるよう練習しておくことが望ましい。地域の子育て支援センターなど様々な世代に解放している親子の遊びの広場に参加し、親子とふれあってほしい。

《学習状況・理解度の確認》

・それぞれの項目においてレポートを提出させる。
・演習科目であるので各自が用意したものを全員の前で演じ、その都度アドバイスをする。

《備考》

・グループ等で製作、発表するので楽しい人間関係を身につけながら学習してほしい。
・科目担当者は、幼稚園教諭・保育士として幼稚園及び子育てプラザにおいて勤務歴のある実務経験者である。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	1-2 自己を分かりやすく表現しようとする力	共同して表現することを通し、他者の表現を受け止め、共感し、より豊かな表現につなげていくことができる
◎	3-1 専門的知識や技術を習得し、活用しようとする力	保育園実習、幼稚園実習で子どもたちの前で、絵本の読み聞かせやパネルシアター等を演じることができるようになる
		児童文化の特性を理解し教材作りをし、子どもの遊びやイメージを豊かにし感性を養う環境や保育展開の方法を理解
○	3-2 自らの実践を振り返り、自己を高めようとする力	幼児の豊かな表現を広げる児童文化の意味を理解し、楽しさを実感すると共に楽しさを生み出す要因を分析できる

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試 験	40
小テスト	0
レポート	20
発表・実技	20
授業内課題	20
その他 ()	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	今後の授業内容概要等と担当者の勤務する加古川子育てプラザにおける児童文化の活用事例について	テキストP10～P29を通読	45
2	手遊び	子どもの発達とあそび歌の特性と理解・やり方	テキストP74～P79とP92～P97を通読	45
3	わらべ歌	子どもの発達とあそび歌の特性と理解・やり方		
4	手づくりおもちゃ	保育に生かせる身近かなものを使ったおもちゃの様々を紹介		
5	手づくりおもちゃ	手づくりおもちゃの製作と遊び方	これまでの授業の整理	45
6	絵本①	子どもの発達と絵本の特性と理解	テキストP32～P37を通読	45
7	絵本②	絵本の選び方と読み聞かせ実践	読み聞かせの絵本を選ぶ	45
8	絵本③	絵本の選び方と読み聞かせ実践 保護者向け絵本について		
9	紙芝居	紙芝居を演じる	テキストP38～P43を通読	45
10	折り紙	折り紙の特性と製作	これまでの授業の整理	45
11	様々なシアターとは	エプロンシアター、パネルシアター、ペープシアター等の特性と理解	テキストP50～P73を通読	45
12	ペープサート・パネルシアター	ペープサート・パネルシアターの製作	グループで相談等する	45
13	ペープサート・パネルシアター	ペープサート・パネルシアターの製作		
14	ペープサート・パネルシアター	ペープサート・パネルシアターを使って保育の展開	シアターの練習をする	60
15	学習のまとめ	豊かな保育を展開するための児童文化の活用総論	テストのための整理	60

《専門教育科目》

科目名	教師・保育者論			科目ナンバリング	C1012SGG041
担当者氏名	三宅 美由紀			担 当 形 態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2	・ 必	開講年次・開講期
					1 年 ・ II 期

《授業の概要》

学生が目指す保育者像を明確にし、その実現のために必要な学習過程を計画する。また、保育に関する知識を深める。Ⅰ期に学んだ理論や実習からの学びを通して、チーム学校運営の一翼を担う保育者としての資質の向上と実践の省察、評価の大切さを知る。さらに、学生自身の人生経験を振り返らせ、その結果を今後の進路選択に活用するなど、自らの望ましい保育者像を構想する。

《テキスト》

『今に生きる保育者論』第4版
秋田 喜代美（編集代表） 西山 薫・菱田 隆昭（編集）

《参考図書》

『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指針解説』
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』
その他授業中に随時紹介

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	1-1 多様な他者を理解しようとする力	教職の意義と保育者の役割を理解し、望ましい保育者像を形成することの意義を理解する。
◎	3-1 専門的知識や技術を習得し、活用しようとする力	保育者に対する自らの適正を探索し、保育実践者としての意欲を高めることができる。

《授業外学習》

○次回の授業範囲を予習しておく。
○出題課題について、調べたりまとめたりしておく。
○授業で学んだことを振り返り、ノート等にまとめておく。

《学習状況・理解度の確認》

課題などの提出物は、コメントを付して返却する。
授業の終わりに、学んだことをまとめ学び表に記録する。

《備考》

○保育所、幼稚園、認定こども園などに関する情報を常に意識して収集しておく。
○科目担当者は、園長経験のある実務経験者である。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試 験	50
小テスト	0
レポート	30
発表・実技	20
授業内課題	0
その他（ ）	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	授業の進め方・評価方法などのガイダンスを行う。 現時点で、めざす保育者像をまとめる。	テキストp. 13～p. 22を通読	45
2	保育者への扉	なぜ保育者をめざすのかを問い直し、各自の努力目標を具体化することにより、学びを深める。	テキストp. 23～41を通読	45
3	保育者の仕事と役割	幼稚園教諭、保育士、保育教諭、児童福祉施設の保育士などの仕事や役割職務内容について学びグループワークを行う。	テキストp. 42～p. 61を通読	45
4	保育者になるための学び	幼稚園教諭免許状・保育士資格取得課程の構造と保育の現場で学ぶ意味を知る。	テキストp. 62～p. 77を通読	45
5	保育者の資質とは	保育者和其他の仕事の違いを知り、保育者に求められる資質、能力や資質向上のための取り組みについて知る。	テキストp. 78～p. 93を通読	45
6	職場で学びあう専門家	保育における職員間の協働や専門機関、地域との連携、協働について学ぶ。	テキストp. 94～p. 107を通読	60
7	子どもの育ちの危機と子育て支援①	子育て環境と育ちの変化について学ぶとともに、子育て支援の重要さと保育者としての役割をについて学ぶ。	テキストp. 94～p. 107を通読	45
8	子どもの育ちの危機と子育て支援②	子育て環境と育ちの変化について学ぶとともに、子育て支援の重要さと保育者としての役割をについて学ぶ。	これまでの授業内容の整理	60
9	保育者の資質向上とキャリア	資質向上のための研修や組織的な取り組みについて知る。	園内外の危機について調べる	45
10	保育者の安全危機管理	園内外の安全確保、災害等に対する備えについてグループワークを行い深く学ぶ。（視聴覚教材）	テキストp. 114～p. 127を通読	45
11	保育者の仕事や課題	現代社会の変化を知り、保育専門職に期待される資質能力について学ぶ。	テキストp. 147～p. 162を通読	45
12	日本の保育者のあゆみ	保育所や幼稚園の発展に力を尽くした保育者、教育者の思想と実践について理解する。	テキストp. 163～p. 174を通読	45
13	資料に見る保育者の姿	国内外のさまざまな資料から、保育者に求められている役割の変化、働き方、海外の保育制度等について知る。	テキストp. 175～p. 198を通読	45
14	より良い保育者になるために	保育に関する専門的学習の基礎について深く学ぶ。	これまでの授業内容の整理	75
15	学習のまとめ	これまでの学習内容と得られた知見、その成果をまとめる。	授業内容のまとめ	75

《専門教育科目》

科目名	保育内容・人間関係			科目ナンバリング	C1012SYH045
担当者氏名	山村 けい子			担 当 形 態	クラス分け
授業方法	演習	単位・必選	2	・ 選	開講年次・開講期
					1 年 ・ II 期

《授業の概要》

乳幼児は子どもの人間関係の基礎を作る重要な時期であり、その多くは、人との関わりの中で培われていく。「生きる力」の基礎は、こども自身の「人間関係」や子どもを取り巻く「人間関係」の中で自分からつかみとったり、教えられたりすることによって身についていくものである。乳幼児の様々な姿、活動から行動を分析し、心を読み取り、より良い援助ができる力をつけ、保育者が重要な役割を担う事の理解を深める。

《テキスト》

『保育内容・人間関係』（2017）小田豊・奥野正義編著 北大路書房
『幼稚園教育要領』（2018）文部科学省
『保育所保育指針解説書』（2018）厚生労働省編 他

《参考図書》

『保育内容 人間関係[第2版]』（2018）濱名浩編著みらい社
『持続可能な開発のための教育ESD入門』（2012）佐藤真久・阿部治著岩波書房
『生涯学習の探究』（2006）松岡広路 学文社他

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	1-1 多様な他者を理解しようとする力	幼稚園教育要領、保育所保育指針等の解説を熟読し理解する。乳幼児の良き支援者になるために積極的に関わる。
○	2-1 自ら課題を発見しようとする力	様々な子どもの姿、事例から保育者としての言葉かけ、支援、援助を学び、課題を見つける。
○	2-2 自ら課題を解決しようとする力	高齢者を始め地域の人々、多文化など自分の生活に関係の深いいろいろな人を理解し、課題に対して向き合う。

《授業外学習》

事前学習として教科書の指定箇所を予習しておく。授業後の復習で疑問点を質問できるように考える。保育雑誌、新聞等で社会情勢を知り、保育者としての資質を高めるようにする。
ボランティア活動などに参加をする。

《学習状況・理解度の確認》

・グループで話し合ったり発表をする。・レポートは授業中に一緒に振り返りを行うか、コメントを付して返却する。
・筆記考査後に振り返りを行い、理解度を確認する。

《備考》

授業中の私語、携帯電話の使用、飲食は禁止。科目担当者は保育所（保育士）勤務経験のある実務経験者。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試 験	60
小テスト	0
レポート	20
発表・実技	10
授業内課題	10
その他（ ）	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	『幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領』の「ねらい」「内容」を理解する。	テキスト	45
2	子どもを取り巻く環境としての「人間関係」	現代社会と子どもの「人間関係」について理解する。社会環境の変化が子どもの人間関係にどのような影響を与えているかを理解をする。	テキストp. 1～p. 17	45
3	保育内容「人間関係」の変遷	『幼稚園教育要領』・『保育所保育指針』等の中の「人間関係」の変遷から何が大きく変わったかを押さえ、ねらいと内容を理解する。	テキストp. 28～p. 35	45
4	乳幼児の発達と「人間関係」	乳幼児期の自己の発達、乳児期の人間関係の特徴、乳幼児期の人間関係の発達における問題を理解する。	テキストp. 53～p. 65	45
5	遊びのなかで育つ「人間関係」	遊びと人間関係、人とのかかわりの実際と子どもの育ち、人とのかかわりを育てる保育者の援助を理解する。	テキストp. 69～p. 77	45
6	人間関係の基礎をつくる遊び	乳児、幼児と発達にあわせたふれあい遊び、集団あそび等を調べ、考えて実践をし、説明をすることができる。（指導案作成）	テキストp. 74～p. 85	45
7	保育者と子どもの「人間関係」	乳幼児の心理的安定の基盤としての保育者のかかわり、幼児の仲間作りと保育者のかかわりについて理解し、説明することができる。	テキストp. 86～p. 92	45
8	子どもの育っていく過程における様々な配慮	集団の中で育っている一人ひとりをどうとらえるか。「みんなと同じ」という価値観について考え、関係性を理解する。	テキストp. 93～p. 107	45
9	「人間関係」の新しい展開	道徳性の芽生えを培う、子どもの人間関係を育てる所（園）内の協力体制について理解をする。	テキストp. 107～p. 121	45
10	家庭での子育て支援をする必要性	家庭での人間関係を支え、子どもの育ちを支えることを理解する。	テキストp. 125～p. 139、資料	45
11	現代的な諸問題に対応した保育と「人間関係」	子どもの多様さ、多様な文化的背景を持つ乳幼児の保育等を理解する。授業内でレポートを書く。	テキストp. 125～p. 139、資料	45
12	地域子育て支援にかかわる「人間関係」	地域子育て支援とは何か。乳幼児をめぐる家庭の人間関係の変化と地域の子育て支援の始まりを理解する。	テキストp. 125～p. 139、資料	45
13	人間関係の育ちを図る地域子育て支援	人間関係の育ちを図る地域子育て支援の実際と人間関係の育ちを図る地域子育て支援の担い手で期待される役割を説明することができる。	テキストp. 125～p. 139、資料	45
14	これからの地域子育て支援と授業の振り返り	これからの地域子育て支援の「支援」から「協働」について理解する。事前にレポートを書き、グループで内容を検討し、説明をする。	テキスト・資料	45
15	学習のまとめ	学修の振り返りとまとめをして、自己評価と理解度を確認する。得られた学習内容と知見を再確認し、具体的な成果を説明することができる。	テキスト・資料	60

《専門教育科目》

科目名	子どもの保健Ⅱ			科目ナンバリング	C1021S-●015
担当者氏名	西村 美穂代			担 当 形 態	単 独
授業方法	演習	単位・必選	1	・ 選	開講年次・開講期
				2	年 ・ I 期

《授業の概要》

乳児保育や子どもの保健ⅠＡ・ⅠＢで学んだ知識を基礎として、乳幼児のこころとからだの健康問題や事故の特徴とその予防について理解し、保育現場において起こりうる様々な状況に対応するのに必要な技術を習得すると共に実践力を養う。
科目担当者は、病院（看護師）勤務経験のある実務経験者。

《授業外学習》

ニュースなどで子どもに関する事故を視聴した場合、あなたがその場に出くわしたとして、どのような応急手当を行うか、をイメージしておく。
また、実習時に園児が病気になったり、けがをした時の担任の先生の対応や応急手当を観察しておく。

《テキスト》

『子どもの保健演習』 大西文子編集 中山書店

《学習状況・理解度の確認》

毎回の講義前に前回の講義内容を復習し、解り難かったことを質問で受け付けて回答する。

《参考図書》

子どもの保健ⅠＡ・ⅠＢで使用したテキスト（子どもの保健Ⅰ）

《備考》

1. 実習（講義）に必要な物品を持参しない場合は、実習（講義）を受けることができない場合もあるため注意すること。
2. 聴講するマナーとして、講義中の通信機器使用は厳禁とする。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	1-2 自己を分かりやすく表現しようとする力	園児が体調不良や病気になったり、けがをした場合にその状態を保護者に正しく伝えることができる。
◎	2-2 自ら課題を解決しようとする力	発達段階に応じた観察・養護・援助ができるようになる。
		園児が体調不良や病気になったり、けがをした時の適切な正しい判断と対応ができる。
		応急救置や救急時の対応が素早くできる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法 (%)	
試 験	90
小テスト	0
レポート	0
発表・実技	0
授業内課題	0
その他（演習態度）	10
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	乳幼児の健康観察①	保育所・幼稚園での乳幼児の健康観察方法と見落としはならない健康観察を理解する。	テキストp. 80観察項目を覚える	45
2	乳幼児の健康観察②	モデル人形を用いて乳幼児の体温・脈拍・呼吸の測定方法を理解し、実際に学生同士で測定できるようになり記録を行うことができる。	自分の健康観察をしておく	45
3	主な乳幼児の症状とその対応	発達段階に応じた発熱・嘔吐・下痢・便秘・脱水を理解し、状態に応じて薬法などの対応ができるようになる。	子どもの保健ⅠＢ症状の復習	45
4	園での与薬	園で与薬を行うことについて解り、モデル人形を用いて発達段階に応じた与薬ができる。	保護者に与薬方法を聞く	45
5	乳幼児の養護	発達段階に応じた抱っこの仕方・衣服の着脱・おむつの当て方をモデル人形を使用して、実際に行うことができ注意点が解る。	子どもの保健ⅠＡ・ⅠＢの復習	45
6	清潔の指導①	発達段階に応じたの手洗い・歯磨きの目標とその方法について理解ができる。	保護者に歯磨きの仕方を聞く	45
7	清潔の指導② —手洗いを通して—	細菌やウイルスを取り除く手洗いができ、園児に指導することができる。	幼少時と今の手洗いを振り返る	45
8	子どもを取り巻く事故	園で発生した事故を紹介し、事故に繋がった問題点を考え、保育士・幼稚園教諭には危機管理がのしかかっていることが解る。	テキストp. 90を読み理解する	45
9	事故防止 —幼児の視野を体験する—	園での事故の種類を考えて、幼児が転倒事故を起こしやすいのはなぜか？を理解するために幼児の視野を体験し、“なぜか？”の理由が解	子どもの保健Ⅰの安全教育復習	45
10	応急手当	『幼稚園・保育所での応急手当』のビデオを視聴し、園での応急手当の仕方が	応急手当の資料の復習	45
11	応急手当を実際に行う	『幼稚園・保育所での応急手当』のビデオに載っていない、緊急を要する症状と病院に搬送するまでの応急手当ができるようになる。	テキストp. 91～p. 95通読し理解する	45
12	救急蘇生法	『幼稚園・保育所での心肺蘇生法』のビデオを視聴しながら、園での発達段階に応じた心肺蘇生の仕方が解る。	テキストp. 96～p. 97のイラストを理解	45
13	救急蘇生法を実際に行う	心肺蘇生用のモデル人形を用いて、園児を救命できるように発達段階に応じた	テキストp. 98～p. 102通読しイメージする	45
14	保健活動と保健計画	保健活動と保健計画立案が理解でき、これまでの演習が活かせるように保健計画立案を作成することができる。	テキストp. 8～p. 10を読み理解する	45
15	学習のまとめ	1回目～14回目までの学習内容が、どこまで理解できているかを確認する。	これまでの履修範囲を復習	60

科目名	子どもの食と栄養A			科目ナンバリング	C1021S-●016
担当者氏名	藤田 裕子			担 当 形 態	単独
授業方法	演習	単位・必選	1 ・ 選	開講年次・開講期	2 年 ・ I 期

《授業の概要》

子どもにとっての「食」は心身の健康と発達に重要である。保育士として、子どもの食に関する支援に必要な知識を習得し実践力につなげていく。身体に必要な栄養素の働きと、それを含む食品について学ぶ。乳児期のミルクや離乳食、幼児期の食生活、また食物アレルギーの実践を学び、正しい食指導や支援ができる能力を培う。

《授業外学習》

学外実習で子どもたちの食環境について学んでください。授業内容について再確認のために教科書をよく見直しておくこと。授業で得た知識を実践に活かすためには、普段の自分の食生活を見直し、食事内容を考えるようにすること。

《テキスト》

『子育て・子育てを支援する 子どもの食と栄養』
堤ちはる・土井正子著 萌文書林

《学習状況・理解度の確認》

返却レポートにはコメントを付す。

《参考図書》

『幼児期の保育と食育一保育園・幼稚園での食育のすすめ方』
小川 雄二/須賀 瑞枝著 芽ばえ社

《備考》

・課題提出遅れ、居眠り、私語、教科書忘れ、授業に関係ないもの（スマホ等）を使用した場合は減点。・科目担当者は、管理栄養士として兵庫県立こども病院勤務歴のある実務経験者。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	2-1 自ら課題を発見しようとする力	食べ物に含まれている栄養素がわかり、その働きが説明できる。
◎	3-1 専門的知識や技術を習得し、活用しようとする力	食物アレルギーについて正しく理解し、どのような食品選択が望ましいか説明できる。
		子どもたちの成長発達段階に適した望ましい食生活指導ができる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試 験	60
小テスト	0
レポート	10
発表・実技	10
授業内課題	20
その他 ()	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	子どもの健康と食生活の意義	子どもの心身の健康、および食生活の現状と課題について理解し、健康的な生活習慣の大切さを学ぶ。	テキストp. 1～p. 16 通読	45
2	子どもの発育・発達と食生活	子どもの発育と栄養状態の評価、食べる機能・消化吸収機能の発達、排せつ機能を理解し、幼児にわかりやすく説明できる。	テキストp. 17～p. 24 通読	45
3	栄養に関する基本的知識	食品の分類を楽しい教材の使用により理解する。食べ物の働きを幼児にわかりやすく説明する方法を考える。	テキストp. 35～p. 36 内容整理	45
4	栄養に関する基本的知識	糖質、脂質、たんぱく質の種類と機能について理解する。	テキストp. 37～p. 43 通読	45
5	栄養に関する基本的知識	ビタミン、ミネラルの種類と機能について理解する。水分の機能についても理解する。	テキストp. 44～p. 48 通読	45
6	乳児期の授乳・離乳の意義と食生活	育児用ミルクの種類や特徴、冷凍母乳の取り扱いについて理解する。離乳の必要性、離乳食の進め方について理解する。	テキストp. 89～p. 111 通読	45
7	人工乳栄養と離乳	調乳実習を行い、無菌操作法による調乳の実践を学ぶ。育児用ミルクの試飲、ベビーフードの試食により乳児期の食事を体験する。	テキストp. 112～p. 125 通読	45
8	特別な配慮を要する子どもの食と栄養	食物アレルギーについての最新情報の理解と、食物アレルギーのある子どもへの対応を学習する。	テキストp. 255～p. 262 通読	45
9	児童福祉施設における食事と栄養 (1)	児童福祉施設給食、保育所給食の実践を学ぶ。衛生管理について理解し手洗いを楽しく指導する演習を行う。	テキストp. 216～p. 229 通読	45
10	児童福祉施設における食事と栄養 (2)	保育所(施設)参加指導実習での食事に関する内容をクラスで発表し、他施設での食育内容の情報を得る。	実習レポートの作成	60
11	幼児期の心身の発達と食生活 (1)	幼児期の食生活の特徴および問題と健康への対応を理解し、指導内容を考える。	テキストp. 148～p. 155 通読	45
12	幼児期の心身の発達と食生活 (2)	幼児期の心身の特徴と食生活の関係、間食の意義と食生活の問題点について理解する。	テキストp. 130～p. 147 通読	45
13	食事バランスガイド	1日に何をどれだけ食べるとよいのか。料理レベルでの組み合わせを学び、自身の食事内容を判定できる。	食事記録2日分	45
14	献立作成の基本と食中毒	献立の立て方と、栄養バランスのとれるお弁当の内容を学び考案する。食中毒の知識を得て予防方法が理解できる。	テキストp. 49～p. 60 通読	45
15	まとめ	これまでの学習内容が十分理解でき、その成果が具体的に説明できる。	授業内容の整理	120

《専門教育科目》

科目名	保育内容・環境			科目ナンバリング	C1021S◆●046
担当者氏名	諸富 眞知子			担 当 形 態	クラス分け
授業方法	演習	単位・必選	2	・ 選	開講年次・開講期
					2 年 ・ I 期

《授業の概要》

現代の幼児を取り巻く環境や幼児と環境との関わりについての専門的事項を踏まえ、幼稚園教育要領、保育所保育指針に示された領域「環境」のねらい及び内容について理解を深め、具体的な指導場面と想定した保育の構想、指導方法を身につけます。

《授業外学習》

・教科書の指定範囲は必ず読み、用語や意味を調べてくる。・配布した資料は必ず目を通し、理解を深める。・指定した課題はレポートを作成し提出をする。

《テキスト》

『保育内容「環境」』 共著 北大路書房『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』『認定こども園教育・保育要領』

《学習状況・理解度の確認》

・レポートは、コメントを付して返却する。・分らないことは毎授業終了時等で質問を受け付ける。

《参考図書》

『事例で学ぶ保育内容「環境」』 無藤隆著 萌文書店

《備考》

・四季折々の自然環境を取り入れるので、必要なものを持参する。
・テキストは資料と並行して活用するため、毎回持参する。科目担当者は園長経験のある実務経験者。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	1-1 多様な他者を理解しようとする力	演習を通して、どのような環境構成や援助が求められているのかか保育者の役割と援助等を考えることができる。
○	3-1 専門的知識や技術を習得し、活用しようとする力	「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」の保育内容「環境」についての「ねらい」「内容」等について理解する。
○	3-2 自らの実践を振り返り、自己を高めようとする力	保育者自身が子どもにとって最も大きい環境であることを理解し、望ましい環境等、実践力を身に付ける。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試 験	60
小テスト	0
レポート	20
発表・実技	10
授業内課題	10
その他()	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	本授業の概要と目標を理解し、毎回の学習内容と学習方法、履修上の諸注意について確認する。	テキストp.1～p.12 通読	60
2	保育の基本と保育内容	保育内容の構造と領域「環境」について理解する。子どもに環境と関わる力を育てるという視点からその内容を考える。	保育指針・教育要領通読	60
3	乳幼児の発達過程と特徴	0歳児から5歳児までの発達と特徴について理解する。発達の順序性と連続性について乳幼児の遊びや活動の事例から理解する。	テキストp.13～p.22 通読	60
4	人的環境と子どもの育ち	子どもと家族のつながりについて理解する。子どもと地域社会のつながりについて理解する。	テキストp.57～p.67 通読	60
5	人的環境と子どもの育ち	子どもと友達のつながりについて理解する。子どもと保育者のつながりについて理解する。	保育所実習レポート作成	60
6	物的環境と子どもの育ち	園内の生活環境を理解する。園内の遊びの環境に関わる中で育つものとは何かについて考える。	粘土の種類、特性レポート作成	60
7	保育内容「環境」と子どもの理解	好奇心・探究心についてその意味や要因について考える。内発的動機づけについてその高め方について考える。	テキストp.31～p.41 通読	60
8	保育内容「環境」と子どもの理解	環境を構成するにあたり、時間・空間という視点から考える。一日の生活時間の構造について理解する。	テキストp.22～p.25 通読	60
9	保育内容「環境」と子どもの理解	園生活や活動、遊びの中で数量・図形等への関心を豊かにする援助について考える。	テキストp.26～p.30 通読	60
10	保育内容「環境」と子どもの理解	思考力を育む保育について考える。知的発達、想像力の発達について理解する。	テキストp.43～p.54 通読	60
11	自然環境と子どもの関わり	身近な動植物との関わりや園外の自然、季節の関わり等を実践事例を通して理解する。（自然物を用いて遊べる遊具製作）	自然観察・草花遊び	60
12	道徳性の芽生え	道徳の概念について理解する。道徳を育む保育について主体的に考え、その保育について説明する。	テキストp.137～p.146 通読	60
13	行事と子どもの育ち	園内行事と子どもの関わり、地域の行事と子どもの関わりを具体的な実践事例をもとに考える。	テキストp.125～p.135 通読	60
14	安全環境と教育	養護の視点、教育の視点から見る安全管理についていかに実践されているのかを理解する。	テキストp.149～p.159 通読	60
15	学習のまとめ	授業の振り返りと理解度を再確認し、環境についての具体的な学びを説明することができる。	授業内容の整理	60

《専門教育科目》

科目名	教育・保育の計画と評価			科目ナンバリング	C3011SGG042
担当者氏名	三宅 美由紀			担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2	・ 必	開講年次・開講期
					1 年 ・ I 期

《授業の概要》

教育課程・全体的な計画と指導計画の作成について、その意義を十分に理解し、理論と実践をつなぐことができるように、基本的な知識を修得する。実際の保育を視聴覚機器を通して視聴し、保育に対する基本を理解した上で、子供の主体性を尊重する指導計画の作成について理解することを目的とする。さらに、保育をめぐる今日的課題をいろいろな方法で察知し、子どもや保育に関する様々な専門的知識を修得し保育の実践力を養う。

《テキスト》

『就学前教育の計画を学ぶ』教育課程・全体的な計画から指導計画へ』
松村和子 近藤幹生 梶島香代 著

《参考図書》

『幼稚園教育要領解説』
『保育所保育指針解説』
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』

《授業外学習》

今回の授業範囲を予習しておくこと。特にテキストをよく読んでおくこと。
適宜課題を出すので、その課題について深く考えてたり調べたりしてまとめること。

《学習状況・理解度の確認》

課題などの提出物は、コメントを付して返却する。
授業の終わりに、学んだことをまとめ学び表に記録する。

《備考》

幼稚園、保育所、認定こども園などに関する情報を常に意識して収集しておく。
科目担当者は、園長経験のある実務経験者である。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	2-1 自ら課題を発見しようとする力	社会的背景を理解し、子供の発達や心身の状況に応じて抱える問題を理解し、適切な指導を行うことができる。
◎	3-2 自らの実践を振り返り、自己を高めようとする力	教育課程・全体的な計画と指導計画の作成について、その意義と方法を理解している。
○	3-1 専門的知識や技術を習得し、活用しようとする力	主体的・創造的に自らの保育活動を計画・実施・評価改善しようとする姿勢をもつ。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	60
小テスト	0
レポート	30
発表・実技	0
授業内課題	10
その他 (0)	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	授業の目的、内容、方法、評価について知る。保育とは何かについて考え、幼児時代を振り返ることで、授業への興味、関心、意欲を持つ。	テキストp. 11～p. 20通読	45
2	教育課程・全体的な計画とは	教育課程・全体的な計画及び指導計画はなぜ必要なのかを学ぶ。	テキストp. 21～p. 34を通読	45
3	教育課程・保育課程の変遷	幼稚園教育課程・保育所保育課程とその歴史を学ぶ。	テキストp. 35～p. 42通読	45
4	幼稚園の教育課程とは	法的な幼稚園教育の目的を踏まえ、教育課程の編成についての考え方を学ぶ。	テキストp. 43～p. 60を通読	45
5	全体的な計画と指導計画の関係性について	保育所の社会的責任を踏まえて、全体的な計画と指導計画の関係を理解する。	テキストp. 61～p. 71を通読	45
6	幼稚園・保育所の生活と乳幼児理解	幼稚園・保育所での乳幼児の生活の比較。その違いから保育上必要な事項についてグループワークを行う。（視聴覚教材）	テキストp. 73～p. 81を通読	45
7	指導計画を考える上で共通に必要なこと	教育課程・全体的な計画及び指導計画を考えるのに必要な保育内容、小学校、地域との連携、延長保育、預かり保育について考える。	テキストp. 83～p. 94を通読	45
8	全体的な計画、指導計画を考えるうえで必要なこと	保育所保育指針に基づく全体的な計画と指導計画の基礎理解を深める。	テキストp. 95～p. 122通読	45
9	教育課程、指導計画を考えるうえで必要なこと	幼稚園教育要領に基づき、教育課程と指導計画の編成について学ぶ。	テキストp. 123～p. 132通読	45
10	全体的な計画を編成し、指導計画を作成する	全体的な計画をもとに指導計画の作成を具体例を通して学び、実践につなげる。	保育指導案の作成	60
11	作成した指導案からの学び	保育指針の改定に基づき、0．1．2歳児の発達を考慮した遊びの指導案をグループで作成し完成させる。	保育指導案の作成	60
12	作成した指導案からの学び	3．4．5歳児の発達を踏まえ、指導計画をグループで作成し完成させる。	テキストp. 133～p. 145通読	45
13	指導計画の実践	環境構成・援助・留意点等について、具体的にどのようにすればよいのかグループで検討し実践に活かせるようにする。（視聴覚教材）	テキストp. 147～p. 159通読	45
14	子ども理解と保育の過程	保育の記録及び省察より、PDCAサイクルについて学ぶ。	これまでの授業内容の整理	60
15	学修のまとめ	これまでの学びから得られた知見とその成果を保育実践の場で活かすことができるようにする。	授業内容のまとめ	60

科目名	社会的養護Ⅱ			科目ナンバリング	C3012SZH025
担当者氏名	藤本 政則			担 当 形 態	単独
授業方法	演習	単位・必選	1 ・ 選	開講年次・開講期	1 年 ・ Ⅱ期

《授業の概要》

保育士の活躍する場は保育所のみではない。乳児院や児童養護施設等の社会的養護においても保育士の専門性は必要とされている。よって社会的養護施設における生活やそこで生活する子どもについて正しく理解し、適切な支援のあり方を学ぶことは保育士にとっての重要なテーマである。特に近年児童虐待問題が深刻化する中、社会的養護の果たす役割はより重要なものとなっている。

《テキスト》

なし。適宜レジュメ等を配布する。

《参考図書》

『新保育士養成講座 第5巻 社会的養護』全国社会福祉協議会

《授業外学習》

毎回の授業前に各テーマに応じた資料や文献を読む等の事前学習に取り組むこと。授業後に授業内容について振り返り、興味関心を抱いたことや疑問に感じたことについて事後学習を行うこと。

《学習状況・理解度の確認》

分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。授業の到達目標に対しては、全体講評を行い、次年度目標に反映させる。

《備考》

科目担当者は、児童福祉施設の施設長を務める実務経験者である。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	2-2 自ら課題を解決しようとする力	様々な課題を抱える子どもやその家族を理解し、適切な支援について説明できる。
◎	3-1 専門的知識や技術を習得し、活用しようとする力	子どもが示している発達上の課題と必要な支援の関係について説明できる。
○	3-2 自らの実践を振り返り、自己を高めようとする力	児童福祉法体制や児童福祉機関等、関係機関の役割と連携について説明できる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試 験	50
小テスト	0
レポート	20
発表・実技	20
授業内課題	0
その他()	10
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	本授業の総テーマや授業対象について説明するとともに、単位認定や成績評価に関する方針や手段について説明する。	授業内容の振り返りと目標設定	45
2	子育てにおける家庭や社会の役割	児童福祉の理念や社会的養護の位置づけについて理解する。	授業レポートの記入と整理	45
3	社会的養護を必要とする子どもたち	施設や里親で暮らす子どもたちの実態について理解する。	授業レポートの記入と整理	45
4	里親養育の実態	里親制度の定義や実態について学ぶとともに、里親養育の実態について理解する。	授業レポートの記入と整理	45
5	里親養育の意義と課題	施設養育との比較における里親養育の意義と課題について理解する。	授業レポートの記入と整理	45
6	特別養子縁組	新たな家族形態として特別養子縁組の内容と実際について理解する。	授業レポートの記入と整理	45
7	乳児院における養育	乳児院における養育の実態を学ぶとともにその意義と課題について理解する。	授業レポートの記入と整理	45
8	児童養護施設における養育①	児童養護施設における養育の実態を学ぶとともにその意義と課題について理解する。	授業レポートの記入と整理	45
9	児童養護施設における養育②	児童養護施設を中心とする社会的養護の現状と今後の方向性について理解する。	授業レポートの記入と整理	45
10	児童虐待問題①	児童虐待への対応の全体像を理解するとともに、その中で本授業が対象とするテーマや内容を理解する。	授業レポートの記入と整理	45
11	児童虐待問題②	児童虐待の定義や実態、統計の捉え方について理解する。	授業レポートの記入と整理	45
12	児童虐待問題③	児童虐待問題の変遷を理解するとともに、各種虐待問題の特徴について理解する。	授業レポートの記入と整理	45
13	児童虐待問題④	一般住民として虐待ケースに接した際の適切な対応について基礎的な知識を理解する。	授業レポートの記入と整理	45
14	児童虐待問題⑤	保育者として虐待ケースに接した際の適切な対応に関する専門的知識について理解する。	授業レポートの記入と整理	45
15	授業の振り返りまとめ	これまでの授業のポイントを再提示するとともに、社会的養護内容に関する全体的な理解と整理を行う。	授業全体の振り返り	60

《専門教育科目》

科目名	子どもの保健ⅠB			科目ナンバリング	C3021S-●014
担当者氏名	西村 美穂代			担 当 形 態	単 独
授業方法	講義	単位・必選	2	・ 選	開講年次・開講期
				2	年 ・ I 期

《授業の概要》

子どもの保健ⅠAで学習した乳幼児の発育・発達の特徴を想起しながら、乳幼児に起こりやすい症状・病気・事故についての理解を深めると共に、子どもの異変に『子どもたちの命を守る』という、的確な判断とその対応が解るための学習である。また、施設などにおける乳幼児の健康と安全管理が理解できるようにする。必要に応じてVTRを導入しながらイメージがしやすいように展開していく。科目担当者は、病院（看護師）勤務経験のある実務経験者。

《テキスト》

子どもの保健ⅠAで使用したテキストを使用するため購入不要。

《授業外学習》

テレビ番組の子どもの保健と関連する以下の番組を視聴する。
【Eテレビ『すくすく子育て』】毎週土曜日21:00～21:29放映
乳幼児が病気に罹ったり、けがをした時などの乳幼児の状態を知りその対応方法を観て、講義中に想起できるようにしておくこと。
＊番組テーマは毎週異なる。

《学習状況・理解度の確認》

毎回の講義前に前回の講義内容を復習し、解り難かったことを質問で受け付けて回答する。

《参考図書》

『なぜ起こる－乳幼児の致命的な事故－』
発行所：学建書院

《備考》

1. 園児たちに“命の大切さ”を教えてほしいと願う思いから、病気の講義では『難病にかかり死にゆく子ども』のビデオを視聴する。
2. 聴講するマナーとして、講義中の通信機器使用は厳禁とする。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	2-2 自ら課題を解決しようとする力	園児たちを守るという『危機管理』がのしかかっていることが理解できる。
◎	3-2 自らの実践を振り返り、自己を高めようとする力	乳幼児特有の症状・病気が理解でき、その予防と対応方法及び事故に対する安全対策ができる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試 験	90
小テスト	0
レポート	10
発表・実技	0
授業内課題	0
その他（ ）	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	乳幼児の病気の特徴と保育者の役割	①発達段階ごとの主な病気の特徴とその病気の症状・対応が解る。 ②病気をもった園児・その養育者への役割と対応が解る。	子どもの保健ⅠAの復習	45
2	保育者が見落としやすい病気	保育所・幼稚園で幼児が突然引き起こす、緊急性を要する病気が解り、症状からの的確な判断・対応をしないといけないことの重要性が解る。	保育現場での病気を調べる	60
3	保育所・幼稚園において流行しやすい感染症	感染と伝染の定義が解り、幼稚園・保育所で予防すべき感染症の種類と出席停止期間の基準が解る。	テキストp. 50を読み理解する	60
4	乳幼児に多く観られるアレルギー	アレルギーが理解でき、乳幼児に多く観られるアレルギー性の病気とアレルギーを起こす病気が解り、その対応と予防ができるようになる。	テキストp. 57、p. 133、p. 134を読む	90
5	乳幼児に多く観られる痙攣	乳幼児に多く観られる痙攣の病気が解り、その対応と予防ができるようになる。	子どもの痙攣の病気を調べる	60
6	乳幼児に多く観られるウイルス・細菌感染	ウイルスと細菌の違いが理解でき、乳幼児に多く観られるウイルス・細菌による感染症とウイルス・細菌による食中毒の病気が解る。	テキストp. 61を読み理解する	45
7	施設などでの衛生管理	施設などでのウイルス・細菌感染症の取り扱いが解り、二次感染を予防することの重要性が理解できる。	テキストp. 118～p. 120通読し理解	90
8	乳幼児のさまざまな病気	乳幼児に多く観られる骨・関節の病気、耳の病気、皮膚の病気、泌尿器の病気、が解り、その対応・予防ができるようになる。	テキストp. 66～p. 70通読し理解	60
9	乳幼児の精神保健	乳幼児期によく観られる『こころ』の病気と発達障害が理解でき、その対応と予防、及び養育者へのかかわり方が解る。	他教科の発達障害を復習する	45
10	VTR視聴による学習	小児がんの病気を理解するために『白血病』に罹患した幼児のVTRを視聴し、その幼児の状態・治療・思いが解るようになる。	テキストp. 71のNo. 3を読み理解する	45
11	保育現場での事故の種類	保育現場でのインシデント・アクシデント事例から、危険防止・事故防止、安全教育における保育者の役割が解る。	日常での子どもの事故を調べる	60
12	保育現場における事故防止・安全対策	乳幼児の発達段階ごとの事故の特徴とその種類、園児への安全教育の重要性が理解でき、園児に安全についての教育が行えるようになる。	保育現場での事故を調べる	60
13	乳幼児の救急処置①	保育所・幼稚園で起こった怪我・鼻出血・やけど・窒息の事例を紹介しながら、それらの対応が解る。	保育現場での事故対応を調べる	60
14	乳幼児の救急処置②	保育所で起こった熱中症・溺水事故の事例を紹介し、なぜ、事故が起こったのか、をディスカッションし、熱中症・溺水防止が解る。	保育現場での事故対応を調べる	60
15	学習のまとめ	『子どもの健康』が理解できているかを確認する。	子どもの健康についての復習	60

科目名	保育内容・人間関係			科目ナンバリング	C3022S◆●045
担当者氏名	山村 けい子			担 当 形 態	単独
授業方法	演習	単位・必選	2	・ 選	開講年次・開講期
					2 年 ・ II 期

《授業の概要》

乳幼児は子どもの人間関係の基礎を作る重要な時期であり、その多くは、人との関わりの中で培われていく。「生きる力」の基礎は、こども自身の「人間関係」や子どもを取り巻く「人間関係」の中で自分からつかみとったり、教えられたりすることによって身につけていくものである。乳幼児の様々な姿、活動から行動を分析し、心を読み取り、より良い援助ができる力をつけ、保育者が重要な役割を担う事の理解を深める。

《テキスト》

『保育内容 人間関係』 小田豊・奥野正義編著 北大路書房
『幼稚園教育要領』（2018）文部科学省 『保育所保育指針解説書』（2018）厚生労働省編他

《参考図書》

『保育内容 人間関係[第2版]』（2018）濱名浩編著みらい社 佐藤真久・阿部治著（2012）『持続可能な開発のための教育ESD入門』筑波書房松岡広路（2006）『生涯学習の探究』学文社

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	1-1 多様な他者を理解しようとする力	幼稚園教育要領、保育所保育指針、等の解説を熟読し理解する。乳幼児の良き支援者になるために積極的に関わる。
○	2-1 自ら課題を発見しようとする力	様々な子どもの姿、事例から保育者としての言葉がけ、支援、援助を学び、課題を見つける。
○	2-2 自ら課題を解決しようとする力	高齢者を始め地域の人々、多文化など自分の生活に関係の深いいろいろな人を理解し、課題に対して向き合う。

《授業外学習》

事前学習として教科書の指定箇所を予習しておく。保育雑誌、新聞等で社会情勢を知り保育者としての資質を高めるようにする。ボランティア活動などに参加をする。

《学習状況・理解度の確認》

・グループで話し合ったり発表をする。・レポートは授業中に一緒に振り返りを行うか、コメントを付して返却する。・筆記考査後に振り返りを行い、理解度を確認する。

《備考》

授業中の私語、携帯電話の使用、飲食は禁止。科目担当者は保育所（保育士）勤務経験のある実務経験者

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法（％）	
試 験	60
小テスト	0
レポート	20
発表・実技	10
授業内課題	10
その他（ ）	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	『幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領』の「ねらい」「内容」を理解する。	テキスト	45
2	子どもを取り巻く環境としての「人間関係」	現代社会と子どもの「人間関係」について理解する。社会環境の変化が子どもの人間関係にどのような影響を与えているかを理解する。	テキストp.1～p.17	45
3	保育内容「人間関係」の変遷	『幼稚園教育要領』・『保育所保育指針』等の中の「人間関係」の変遷から何が大きく変わったかを押さえ、ねらい、内容を理解する。	テキストp.28～p.35	45
4	乳幼児の発達と「人間関係」	乳幼児期の自己の発達、乳児期の人間関係の特徴、乳幼児期の人間関係の発達における問題を理解する。	テキストp.53～p.65	45
5	遊びのなかで育つ「人間関係」	遊びと人間関係、人とのかかわりの実際と子どもの育ち、人とのかかわりを育てる保育者の援助を理解する。	テキストp.69～p.77	45
6	人間関係の基礎をつくる遊び	乳児、幼児と発達にあわせたふれあい遊び、集団あそび等を調べ、考えて実践をし、説明をすることができる。（指導案作成）	テキストp.74～p.85	45
7	保育者と子どもの「人間関係」	乳幼児の心理的安定の基盤としての保育者のかかわり、幼児の仲間作りと保育者のかかわりについて理解し、説明することができる。	テキストp.86～p.92	45
8	子どもの育っていく過程における様々な配慮	集団の中で育てている一人ひとりをどうとらえるか。「みんなと同じ」という価値観について考え、関係性を理解する。	テキストp.93～p.107	45
9	「人間関係」の新しい展開	道徳性の芽生えを培う、子どもの人間関係を育てる所（園）内の協力体制について模擬保育と振り返りを通して学ぶ。	テキストp.107～p.121	45
10	家庭での子育て支援をする必要性	家庭での人間関係を支え、子どもの育ちを支えることを理解する。	テキストp.125～p.139、資料	45
11	現代的な諸問題に対応した保育と「人間関係」	子どもの多様さ、多様な文化的背景を持つ乳幼児の保育等を理解する。授業内でレポートを書く。	テキストp.125～p.139、資料	45
12	地域子育て支援にかかわる「人間関係」	地域子育て支援とは何か。乳幼児をめぐる家庭の人間関係の変化と地域の子育て支援の始まりを理解する。	テキストp.125～p.139、資料	45
13	人間関係の育ちを図る地域子育て支援	人間関係の育ちを図る地域子育て支援の実際と人間関係の育ちを図る地域子育て支援の担い手で期待される役割を説明することができる。	テキストp.125～p.139、資料	45
14	これからの地域子育て支援と授業の振り返り	これからの地域子育て支援の「支援」から「協働」について理解する。事前にレポートを書き、グループで内容を検討し、説明をする。	テキスト・資料	45
15	学習のまとめ	学修の振り返りをして、自己評価と理解度を確認する。得られた学習内容と知見を再確認し、具体的な成果を説明することができる。	テキスト・資料	60

《専門教育科目》

科目名	家庭支援論			科目ナンバリング	C3032S-●018
担当者氏名	山村 けい子			担 当 形 態	単 独
授業方法	講義	単位・必選	2	・ 選	開講年次・開講期
					3 年 ・ II 期

《授業の概要》

近年、核家族化等の影響により、地域社会のコミュニティや家庭の形態も多様化してきた。子どもと家庭を取り巻く環境の変化の中で、育児と就労の両立の困難、子育ての孤立化、虐待の問題、貧困等、子どもの育ちの変容や家庭の子育て力の低下が言われてくるようになった。また、地域の中で近隣の人間関係が希薄化し、地域の子育ての力も低下が著しい。これらの背景を踏まえて、保育者の役割、家庭支援の在り方を理解する。

《テキスト》

松村和子編著『シードブック子ども家庭支援論』（2019）建帛社

《参考図書》

保育所保育指針(2018)厚生労働省 柏女霊峰著（2018）『子ども家庭福祉論』誠信書房 松岡広路（2006）『生涯学習論の探究』学文社他

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	1-1 多様な他者を理解しようとする力	現代の家族・家庭の変容について知り、さまざまな人間関係について理解を深め、主体的に考えるようになる。
○	2-2 自ら課題を解決しようとする力	実際の保育現場での実践例を通して学習をし、保育現場で起こりうる諸問題に対して見通しを持つ
○	3-1 専門的知識や技術を習得し、活用しようとする力	児童福祉法、保育所保育指針、幼稚園教育要領に示されている家庭支援の原理、方法を理解する。

《授業外学習》

事前学習として教科書の指定箇所に通しておく。
「家庭支援」について保育実習等で経験したことを踏まえてレポート等にまとめる。
保育実習等で経験したことから保育者の役割を考え、「子ども家庭支援論」の授業に臨む。

《学習状況・理解度の確認》

学習したことをレポートに書き提出し、授業の中で振り返る。
課題についてグループワークをし、理解を深める。授業の最後に振り返りをする。

《備考》

単に授業に出席をするだけでなく、積極的な授業参加を求める。レポート等は期限を守る。授業中は、真摯な態度で臨む。科目担当者は保育所（保育士）勤務経験のある実務経験者

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試 験	70
小テスト	0
レポート	20
発表・実技	0
授業内課題	0
その他（授業態度等）	10
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	子ども家庭支援の意義と必要性	家庭とは家族や親族だけでなく、個人の支えとなる関係性として環境を捉える概念である。意義を理解する。	テキスト該当ページ	45
2	子ども家庭支援の目標と機能	児童福祉法、保育所保育指針に示している家庭支援の原理を学び、家庭支援の目標と機能について理解をする。	テキスト該当ページ	45
3	子ども家庭支援における保育士等の役割	子どもの最善の利益を考え、子ども、保護者の抱えているニーズを明らかにして解決に結びつくような役割を学ぶ。	テキスト該当ページ	45
4	保育士等に求められる基本的態度	子ども、保護者等を受容し、人権、倫理観、人間性等及び職務に対する責任、自覚などが基盤となることを学ぶ。	テキスト該当ページ	45
5	保育の特性と保育士の専門性を生かした家庭支援	保育の特性である養護と教育の一体化を基盤に保育士の専門性を生かすことを理解する。	テキスト該当ページ	45
6	保護者の相互理解と信頼関係の形成	現代の家族・家庭の変容や家庭における様々な人間関係について学び、様々なニーズに対する支援を知る。	テキスト該当ページ	45
7	家庭の状況に応じた支援（要保護児童・多文化等）	現在の子育て支援サービスは、すべての子育て家庭を対象としている。多様な子育て支援サービスと概要の理解をする。	テキスト該当ページ	45
8	地域の資源の活用と関係諸機関との連携・協力	生活課題を乗り越えて行くために資源の多さや多様さだけでなく、活用の在り方の重要性について理解をする。	テキスト該当ページ	45
9	子育て家庭の福祉を図るための社会資源	児童家庭福祉施策と児童家庭福祉の法制度や近年の動向、社会資源とその担い手や役割について理解をする。	テキスト該当ページ	45
10	子育て支援施策・次世代育成支援策の推進	児童家庭福祉の施策体制や子ども・子育て支援新制度までの経緯と新制度の枠組みと実施体制を理解をする。	テキスト該当ページ	45
11	子ども家庭支援の内容と対象	子どもの「いのち」尊さを根底に保育所や地域の子育てにおいて問題発生の予防や早期発見等の多様な支援の展開を学ぶ。	テキスト該当ページ	45
12	保育所等利用児童の家庭への支援	保育所入所児童の家庭への支援について、保育所の役割等と「保育所保育指針」における家庭支援の視点から理解する。	テキスト該当ページ	45
13	地域の子育て家庭への支援	地域の子育て家庭の支援の意味や役割、機能、特性を法制度に規定されている内容を把握。枠組みから支援者の役割を理解する。	テキスト該当ページ	45
14	相談事例の検討 学習の振り返り	事例をソーシャルワークを参考に課題解決についてグループワークをし、保育士という専門職を理解する。	テキスト・プリント	45
15	学習のまとめ	学修の振り返りとまとめ。振り返りをして、自己評価と理解度を確認し、その具体的な成果を説明できる。	テキスト・プリント	45

《専門教育科目》

科目名	保育実習Ⅱ			科目ナンバリング	C3031S-〇030
担当者氏名	山村 けい子, 船木 眞弓			担 当 形 態	複担
授業方法	実習	単位・必選	2	・ 選	開講年次・開講期
					3 年 ・ 通年(Ⅱ期)

《授業の概要》

原則1日8時間×10日間＝80時間の保育所参加指導実習を行う。
科目担当者は、保育所（保育士）勤務経験及び園長経験のある実務経験者である。

《授業外学習》

保育園や認定こども園の行事等に積極的に参加し、子どもの様子や保育者の役割を観察する。
積極的に保育現場を訪問し、子どもとの出会いを経験する。保育に関する本、絵本等を参考にし、遊びのレパートリーを増やし、教材研究をする。子どもの発達に関する本を参考にし、子どもの心身の理解を深めておく。

《テキスト》

特になし

《学習状況・理解度の確認》

実習園からの評価表を基に個人面談を行い、実習課題の達成度を確認する。

《参考図書》

『実習日誌の書き方』開仁志編著 一藝社 2012
『これで安心！保育指導案の書き方』 開仁志編著 北大路書房 2008

《備考》

実習中は、実習園の指示に従うこと。保育実習指導Ⅱと連動して評価するものとする。やむを得ず欠席・遅刻・早退する場合は、必ず実習園と大学に連絡すること。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	2-2 自ら課題を解決しようとする力	指導案を作成し、部分実習を行いながら、自らの強みと弱みを見つける。
◎	3-1 専門的知識や技術を習得し、活用しようとする力	子どもと保育者のかかわり方や、保育者の援助・配慮を学び、自ら実践する。
○	3-2 自らの実践を振り返り、自己を高めようとする力	PDCAサイクルを用いて実践を重ね、子どもとの関係構築を図り、理想の保育者像を確立する。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試 験	0
小テスト	0
レポート	0
発表・実技	0
授業内課題	20
その他（実習園の評価）	80
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	参加指導実習	各実習園にて参加指導実習を行う 詳細は実習実施要項参照	実習記録・指導案の作成	60
2	参加指導実習	各実習園にて参加指導実習を行う 詳細は実習実施要項参照	実習記録・指導案の作成	60
3	参加指導実習	各実習園にて参加指導実習を行う 詳細は実習実施要項参照	実習記録・指導案の作成	60
4	参加指導実習	各実習園にて参加指導実習を行う 詳細は実習実施要項参照	実習記録・指導案の作成	60
5	参加指導実習	各実習園にて参加指導実習を行う 詳細は実習実施要項参照	実習記録・指導案の作成	60
6	参加指導実習	各実習園にて参加指導実習を行う 詳細は実習実施要項参照	実習記録・指導案の作成	60
7	参加指導実習	各実習園にて参加指導実習を行う 詳細は実習実施要項参照	実習記録・指導案の作成	60
8	参加指導実習	各実習園にて参加指導実習を行う 詳細は実習実施要項参照	実習記録・指導案の作成	60
9	参加指導実習	各実習園にて参加指導実習を行う 詳細は実習実施要項参照	実習記録・指導案の作成	60
10	参加指導実習	各実習園にて参加指導実習を行う 詳細は実習実施要項参照	実習記録・指導案の作成	60
11	参加指導実習	各実習園にて参加指導実習を行う 詳細は実習実施要項参照	実習記録・指導案の作成	60
12	参加指導実習	各実習園にて参加指導実習を行う 詳細は実習実施要項参照	実習記録・指導案の作成	60
13	参加指導実習	各実習園にて参加指導実習を行う 詳細は実習実施要項参照	実習記録・指導案の作成	60
14	参加指導実習	各実習園にて参加指導実習を行う 詳細は実習実施要項参照	実習記録・指導案の作成	60
15	参加指導実習	各実習園にて参加指導実習を行う 詳細は実習実施要項参照	実習記録・指導案の作成	60